

岡山エフエム放送社長賞

行ってきますの七秒ギュー

倉敷市立長尾小学校

三年生 福井 颯太

ぼくには、毎朝かならずしていることがある。登校前の家族との七秒ギューだ

「一、二、三、四、五、六、七。行ってきますのギュー。」

「一秒や三秒ではだめ。七秒するから意味がある。」

とお母さんは言う。でも、なぜ七秒なのか、ぼくはふしぎに思うことがある。

これは一年生のときから一度もかかしたことがない。妹も今年から一年生になったので、三人でするギューもときどきある。

でも、ときどき朝の学校のじゅんびがおそくなって、あれがない、これがないとイライラしてきて、お母さんにきつく言うてしまうことがある。

「あれ、どこやしたん。」

「きのうの夜、じゅんびしてないからでしょ。」

「お母さんが、ちゃんとしてくれないから。」

こんな言い合いはしょっちゅうだ。そして、お母さんは泣きそうな顔をして、

「お母さんのせい？」

とさみしそうに言う。ぼくは、ひくにひけないし、ますます直にもなれない。何かトゲトゲした空気になって、心がモヤモヤしてくる。

「どうしよう。」

でも、家を出るときになると、

「そうた、おいで。行ってきますのギューしよ。学校楽しく行っておいで。」

とやさしい顔で、お母さんがだきしめてくれる。さっきまであんなに言い合って、イライラしていたのに、心がすうっと軽くなる。お母さんの顔も、笑顔になっている。たまにぼくが、す直にお母さんの所に行くことができなくても、そっぽをむいてふていても、お母さんはだきしめてくる。そのおかげでさっきまでコツコツにかたくなっていた心はホッと温かくなって

明るくなる。するとぼくは安心して学校に行くことができる。学校でつらいことがあっても、すぐに朝のギューのパワーで元気になる。お母さんは

「いつ、何がおこるかわからないから、行ってきますやおわかれのときは、必ず笑顔でしないとこうかいするからね。」と、今まで何でも聞かされている。

ぼくには、九十七才のひいばあばがいた。去年の十月から体ちようがわるくなって、休みの日にはたくさん会いに行った。ずっとベッドに横になっていたひいばあば。ぼくたちが会いに行くと、ゆっくりと起き上がって笑顔で、

「よう、きたなあ。ええ子じゃなあ。」

と言って手をにぎってくれた。ひいばあばとおわかれするときはず、

「おばあちゃん、大好きだよ。大好きなギュー。また会いに来るよ。」

と強くギューツとする。するとひいばあばも少し力を入れてだきしめてくれる。ぼくはお母さんがいつもしてくれるように、ひいばあばにしていた。

ある日、ひいばあばは天国に行ってしまった。さいごのとき

には会えなかったけど、会ったとき、たくさんたくさんギューをして、たくさんたくさんありがとうや、大好きが伝えられていたから、くやしくて悲しい気持ちがあったけど、ぼくの気持ちにはちゃんとひいばあばに伝わっていると感じた、

このとき、お母さんが言っている意味が少しわかったような気がした。こうかいしないように「ありがとう」と「大好きだよ。」はいっぱい伝えておこうと。

友だちにギューするのを見られるのは、少しはずかしい。でもどうしてもしたいから、車のカゲにかくれてする。ぼくにとってまほうのパワーのみなもだから。